

令和6年度東部地区道徳教育研究協議会

羽生市立川俣小学校

【高学年部会】

主 題 名 誰にでも偏見の心が
内容項目 C 公正、公平、社会正義
教 材 名 「未来を見つめるまなざし」
(彩の国の道徳「未来に生きる」)



授業の様子



協議会の様子

1 各グループからの発表（ワークショップ型分科会）

- 日頃の学級経営の素晴らしさを感じた授業であった。児童は他者の考えをしっかりと聞いていた。
- 導入が工夫されていて、自分事として考えられるきっかけとなった。今回の導入を参考にして、日頃の授業に生かしていきたい。
- 自分との関わりで考えられるような発問の工夫が見られた。日頃の授業でも、主発問の時間を確保したり、問い返しをしたりして話し合いを深めていきたい。
- 児童の考えを共有する場面では、ICTを活用して自分の考えとの共通点や相違点を知ることが容易にできる。見る視点を伝えると、より深まることが分かった。
- タイトルの「未来を見つめるまなざし」にも大きな意味があると思う。今後も、教材の持ち味を生かして教材吟味をしていきたい。教員としても生き方について気付かされることがある。

2 指導講評

- 4月から積み上げてきた学級経営の素晴らしさが伝わってきた。学級には本音を言い合える雰囲気がある。
- 「なぜこの発問をするのか」という理由を踏まえて授業展開をしていくことが大切である。また、教員が児童の実態を捉えて、児童の反応を予想しておくことも大切である。児童の思考の流れを大切に授業を展開したい。
- ICTの活用は、心を可視化するために活用できる。ねらいに迫る、考えを深めるためのものにしたい。ICTの活用によって生み出された時間を有効活用できるとよい。
- 主人公「ぼく」の心の変容に注目させ、見方が変わったことを押さえる。「なぜだろう？」と問い、児童が思考する時間を確保したい。
- 少人数での話し合いを取り入れると、自信をもって発表することにもつながる。
- 今後も、児童が思考する時間をつくり、児童がたくさん考えられる授業にしていきたい。
- 道徳科の授業だけでなく、全ての教育活動の中で児童の心は成長していく。

